



応用生物科学科

2021年8月10日～23日開催
オープンキャンパス
Q & A

<はじめに>

応用生物科学科オープンキャンパスに参加していただきありがとうございました。2021年の応用生物科学科オープンキャンパスは、「学生との交流会」、「個別相談」、「Q & A サイト」の3つを開催しました。“本当はキャンパスを実際に見たかった”という声が多数寄せられる中で、やむを得ずオンライン開催としましたが、計80名の高校生・受験生に参加していただき活発に話しをすることができました。ここで質問の一部を文書でも返答します。

今回のオープンキャンパスに参加できなかった皆さんの参考にもしていただければ幸いです。

なお、学科の最新情報は下記の応用生物科学科告知サイトをご覧ください。

<https://www.upc-osaka.ac.jp/new-univ/agribio/>



< Q & A >

Q：他学科との違いは何ですか？

A：農学部以外の2学科や理学部の生物学科との最も大きな違いは、生命科学からフィールド科学までの幅広い分野について学ぶことができることです。また通常のカリキュラムに加えて、毎年一定数の学生が食品・バイオ産業に関わる専門技術者を養成する副専攻を専攻することも特徴です。「食生産科学副専攻」と「植物工場科学副専攻」があり、それぞれ、「食」の安全・安心を担うスペシャリストと、植物工場に関する専門技術者を育成しています。

Q：研究室での研究はどのようなものですか？

A：応用生物科学に関わる課題が日本や世界には数多くあります。課題解決に結び付く可能性のある生命現象について、自ら実験しながら紐解いていくのが研究室での研究です。

応用生物科学科では3,4年生が計10の研究グループに分かれ、先端的生物学（ゲノミクス、メタボロミクス、バイオイメージング、バイオインフォマティクス、有用遺伝子探索）、分子農学・生物工学（遺伝子組換え、ゲノム編集、代謝制御、細胞ファクトリー）、食生産科学（循環型生産、資源の利活用、スマート農業、植物工場）などの分野で、応用生物科学に関わる様々な課題解決につながる研究に取り組んでいます。

Q：応用生物科学科のカリキュラムはどのようなものですか？

A：生物学をベースとした農学の教育を行います。1年次～4年次のカリキュラムを紹介します。

【一年次】基幹教育科目（基礎的な生物学・化学などの講義や実験、一般教養、英語、初習外国語など）と専門科目（農学概論、基礎生命科学の2科目）により幅広い教養と自然科学や生物科学に関する基盤能力を修得します。

【二年次-三年次前期】専門科目にて生物学を分子レベルで捉える能力を修得します（細胞分子生物学、ゲノム生物学、応用生物科学基礎実験、生物統計学演習、バイオインフォマティクス演習など）。さらに、食料生産や環境保全に関する素養と能力を修得します（フィールド実習、植物育種学、園芸生産学、作物学、土壌・植物栄養学、植物保護学など）

【三年次後期～四年次】三年次後期に研究室に配属し、各自が選ぶ研究課題について自ら解決するための知識や技術を教員の指導を受けながら身につけ、卒業研究に取り組みます。

Q：卒業後の進路について知りたいです。

A：修士課程修了後に専門性を活かして製造業分野や公務員として活躍するOG・OBが多数います。学部卒では製造業に就職する人が多いです。2017年度～2019年度の卒業した学部生156名の進路は、「修士課程への進学」が63%、「食品会社」と「化学・医薬・化粧品」がそれぞれ12%と6%、「公務員」が6%、「農業関連企業」が1%、その他が13%です。

修士課程修了後の進路は多い順に、「化学・医薬・化粧品（25%）」、「農業関連企業（18%）」、「食品（17%）」、「博士課程進学（10%）」、「公務員（10%）」、「情報通信・ソフトウェア（7%）」、「その他（9%）」です。詳しくは下記サイトを見てください。

https://www.d-pam.com/upc-osaka/217755/index.html#target/page_no=22

Q：どんな勉強をしておけば良いですか？

A：「学生との交流会」では、応用生物科学科の現役の大学生や院生が自分が受験した時のそれぞれの勉強法を紹介しました。共通していたのは下記の2点です。

- ・受験科目（下記サイトに最新情報）を意識して勉強した。

https://www.upc-osaka.ac.jp/new-univ/admissions/ug/exam_info/summary.html

- ・集中力を、人それぞれのやり方で高める工夫をした。

Q：物理・化学で入学した人に生物の補講はやってくれますか？

A：心配しなくて大丈夫です。物理・化学で入学した本学科の学生は多いです。とくにハンディは感じずにカリキュラムをこなしています。生物科学に関わる内容は、基礎教育科目と専門科目により無理なく体系的に学ぶことができます。

Q：学校推薦型選抜での受験を考えています。志望理由書と活動報告書はどのように評価されますか？

A：応用生物科学科の受験枠50名の内10名が学校推薦型選抜の枠です。一般

選抜（前・後期）に加えて学校推薦型選抜もぜひ検討してください。学校推薦型選抜は、大学入学共通テスト 8割、残り 2割が出願書類（調査書、出身学校長の推薦書、志望理由書、活動報告書）の総合で判定されます。

志望理由書では思考力・判断力および表現力を有していることを評価します。また、活動報告書（および調査書）では様々な課題について他者と協働的に取り組む姿勢と、高い探求心および勉学意欲を備えていることを評価します。したがって学校推薦型選抜での受験を希望している人には、高校生生活での勉学やその他活動を各々充実させるとともに、その状況をわかりやすくアピールしていただきたいです。

なお大学入学共通テストでは科目による配点に違いがあります。詳細は下記サイトで確認してください。

https://www.d-pam.com/upc-osaka/218320/index.html#target/page_no=17

Q：学生の男女比はどれくらいですか？

A：年によって多少変わりますが、概ね半分ずつです。

Q：大阪公立大学となって、新しくなること、特徴的なことは何ですか？

A：これまでよりも幅広い学問領域を擁する総合大学になることです。学問的な交流が活発になり、より高度な研究・教育ができるようになります。学生数も約1万6千人規模になりますので、新たな繋がりの中で相互に刺激し合って成長し合うこともできます。生命科学からフィールド科学までの幅広い分野について学ぶ応用生物科学科生は、大阪公立大学の中核を担う学生になって欲しいです。

<おわりに>

オンラインによるオープンキャンパスは我々応用生物科学科教員にとってもほぼ初めての経験でしたが、多くの高校生・受験生が私たちの学科に興味を持ってくださっていることがわかりました。各質問から高校生・受験生の皆さんが応用生物科学科について真摯に考えていることを強く感じました。受験生の皆さんには、高校等での学びを充実させながら、この志をさらに高めてほしいと思います。そして同じキャンパスでともに学び研究することを切に願っています。